

■第3回「学校を考える会」で提出された質問と回答

前回提出いただいたシートのうち、「質問」については内容を損なわない範囲で要約をさせていただいております。
また、1つのシート内に複数の質問や意見と質問等を併記いただいた場合には、内容等に応じて文章を分け、個別に回答している場合があります。

(1) 通学・スクールバスに関する疑問点〔25件〕

No	質問（要約）	回答
1	バス停はどうするのか。待つ場所はあるのか	待機中や乗降時の児童の安全性を確保できることと、スクールバスが駐停車しても、他の走行車両への影響が少なく、児童が集合するのに十分なスペース確保できることを重視して、乗降場所を設定します。
2	バスに乗る児童は1箇所集まってバスに乗って登校するのか。それとも2・3箇所バス停を作って児童をピックアップしていくのか。	児童生徒の数やバスのルートに応じて、複数のバス停を設ける予定です。
3	バスの停留時間はどれくらいあるのか。	スクールバスの試行運転などにより、児童がバスに安全に乗車するために必要な停留時間を検証してまいりたいと考えております。
4	学校により行事が異なるが、それぞれの学校行事（日課）に対応してもらえるのか。（個人懇談会のため4時間授業など）	事前に行事日程を学校と教育委員会で共有し、学校行事に合わせてスクールバスを運行する予定です。
5	全国的に運転手不足で路線バス・スクールバスが廃止されている中、スクールバスの確保ができるとは限らない。その点どう考えるのか。	バスの運転手が慢性的な人手不足に陥っている現状は承知しており、現在、バスの事業者ヒアリングをするなど、現状の把握に努めているところです。 児童数の将来推計からも多数のバス（運転手）の導入は適当ではないことから、運行ダイヤ等を工夫し、必要最低限の台数で運用でき、かつ安全で安定した運行体制が構築できるよう、引き続き、検討を進めてまいりたいと考えております。
6	スクールバスの安全な運行について、人員はどのように配置されるのか。	スクールバスが安全に運行できるよう、今後、学校やスクールバスの事業者と協議を進め、具体的な内容を決定していきます。
7	具体的に依頼を考えている事業所等はあるのか。実績はあるか。	運行事業者の選定方法については、現在検討中です。
8	直線距離での算出は何处なのか。	第3回の会でお示ししましたスクールバスの対象エリア案は、学校の正門からの直線距離を目安にして設定しました。
9	天候により早帰りや下校を遅らせることもあるが、急な変更にとどこまで対応してもらえるのか。	今後、スクールバスの運行事業者を決定する中で、可能な限り、柔軟な運用ができるよう協議してまいりたいと考えています。 なお、台風などの緊急時においては、これまでと同様に保護者による引き取りをお願いすることがあります。
10	出欠・遅刻をバスの運転手はどのように把握するのか。	現在使用している保護者連絡用アプリ tetoru を活用することも含め、連絡手段を検討してまいります。
11	乗車場所までは保護者が連れていくのか。現在の通学ボランティアをお願いするのか。	児童生徒の安全確保や乗り遅れの防止のため、保護者や地域の方々による付き添いや見守りのご協力をお願いできればと考えております。
12	通学団がまるまる1つ遅れてしまった場合は、その後、各家庭で学校まで送ることになってしまうのでは。	乗り遅れにつきましては、再度集合場所まで戻ることは難しいので、申し訳ありませんが、保護者による送迎などによりご対応いただきたいです。 また、児童生徒の安全確保や乗り遅れの防止のため、保護者や地域の方々による付き添いや見守りのご協力をお願いできればと考えております。
13	1・2年生の児童がそれぞれの自宅からバス乗車場まで行くのは、少し難しいのではないか。	児童生徒の安全確保や乗り遅れの防止のため、保護者や地域の方々による付き添いや見守りのご協力をお願いできればと考えております。
14	最初の乗車から学校までどのくらいの時間を想定されているのか。	できる限り乗車時間が30分以内になるように組みたいと考えています。

15	民間のバスを利用出来たり柔軟な対応はできないか。	民間のバスは、不特定の方を乗せ、駅や病院、公共施設などを行き来するためのものであり、児童生徒の通学を目的として運行されるものではありませんので、現時点では民間のバスを活用することは考えておりません。
16	小牧ヶ丘の子は今歩いて通学しているのに、再編後バスに乗れるのはなぜか。	小牧ヶ丘の一部の地域は、現在においても通学距離が著しく遠距離であり、自宅から通学団の集合場所までの距離が遠く、集団で通学することが難しいことを考慮し、第3回考える会ではバスの対象とすることをお示しました。
17	なぜ現時点で最も遠い通学距離を基準にしているのか。	地域の皆さまからいただいたご意見を踏まえ、現在、スクールバスの考え方等について再検討しております。新たな考え方等については、8月24日及び8月30日に開催する保護者等意見交換会でお示しをさせていただきます。
18	大山区の児童はスクールバスは出ないようだが、大丈夫なのか。	
19	下校時2便は少ないのでは。部活動を終えた子どもたちは暗い道を一人で帰宅するのか。	
20	スクールバスを2便にするということは、部活動は今後縮小することか。	
21	部活動はなしにする方向で考えているのか。	
22	スクールバスエリア外の家庭でスクールバス希望を受け入れ可能なかどうか。	原則、エリア内の児童を対象としておりますが、登校に著しく支障がでる場合には個別にご相談いただきたいと考えております。
23	乗車場所は1地区で1か所？	スクールバスの見直し案では、バス通学の対象児童数が大幅に増える見込みであることから、道路上へのバス停の設置等はせず、多数の児童が安全に待機できる地域の公共施設や公共用地への設置を検討しています。 今後、各地域の利用者数の見込みや適地の選定を進めてまいります。利用者数の少ない地域であっても最低1地区1か所以上はバス停を設置することを考えています。
24	長距離を一人で歩く子が出てくるかもしれない点はどうするのか。	再編後、通学区域が変わる児童については、改めて通学路の設定を行ってまいります。 新たに通学路となる場所については、地域の皆さんのご協力もいただきながら、安全点検や安全対策、見守りボランティアなど、市と学校、地域が一体となって見守る体制を構築し、通学路の安全確保に努めます。
25	自転車通学になった場合、アシスト自転車の利用はできるのか。	各学校で取り決めていく事項であり、禁止されていることがあります。

(2) その他の疑問点 [1 4 件]

No	質問(要約)	回答
1	校舎の使用年数を考慮すると、桃ヶ丘小学校よりも大城小学校の方が新しい。大城小学校を使用するということもあり得るのか。	桃ヶ丘小と光ヶ丘小の校舎を利用する理由としましては、 ・ 小学校と中学校が隣接していることで、学校間の交流が行いやすくなり、より小中学校の連携を強化することができること ・ 児童生徒の通学距離を考慮した場合に、再編後の位置関係や東西のバランスがよいこと などの理由を踏まえ、桃ヶ丘小と光ヶ丘小の校舎を利用することが望ましいと考えています。
2	ネクタイ、リボン、体操服はどの学校のものとするのか。	制服(ネクタイ／リボン)などの取り扱いについては、児童生徒に再編後の一体感や気持ちを新たに学校生活を送ってもらうため、重要なものです。 児童生徒の意見を大切にしつつ、これまでの伝統や思い入れなどへも配慮しながら、今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、検討していきます。
3	修学旅行を再編後すぐの5月に実施は厳しい。積立などどうするのか。	今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、具体的な内容を検討していきます。
4	各学校によって、PTAの決め方や行事の内容が違うはず。どの学校に合わせるのか。	
5	PTA の役員はどのようになっていくのか。	
6	光ヶ丘小学校の駐車場はせまいので、授業参観や運動会等、行事の時どうすればいいでしょうか。	駐車場等の施設整備については、学校からのヒアリングをもとに、施設整備費や優先度などにより総合的に検討していきたいと考えています。
7	7月に準備委員会を立ち上げるようであるが、公開会議なのか。	学校再編に向けて、教職員が学校現場での事務を整理していくための組織であり、会議は公開しません。
8	教員へのアンケートはないのか。その理由は。	教職員に対し、学校再編に伴って疑問に思うことなどの意見の聞き取りを実施しました。 また、今後、教職員の方々の意見を広く拾っていくために、5小3中の全ての学校の教職員を対象にした説明会をそれぞれ実施し、意見交換を行う予定です。
9	子どもへの説明はいつから？子どもたちが噂だけで不安に思っていると思います。	8月24日及び8月30日に、保護者及び児童生徒を対象にした意見交換会を実施する予定です。また、児童生徒へのアンケート調査の前段で、今回の学校再編の概要についてわかりやすい文章で作成し、子どもたちにも伝わるように心がけました。
10	再編後1クラスの人数が増えており心配。特例として1クラス30人以下にするなど、より手厚くしてもらえないか。	本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2・3年生は40人としており、現時点で、市独自に基準を設定することは考えておりません。 一方で、国では中学2～3年生の35人学級への引き下げなど、少人数学級に向けた議論が進んでいることも承知しており、今後、国や愛知県の動きを注視してまいります。
11	市として桃花台の人口を増やそうとする政策はありますか？	人口減少やこれに伴う諸課題は、我が国全体の人口構造的な問題であり、本市におきましても、これまで子どもや子育てに関する施策を重点的、総合的に推進してきましたが、現実的には人口増加は難しく、将来的に、人口減少、児童生徒数の減少は、さらに進むと推計しており、学校再編が必要であると考えています。 また、学校再編により、充実した学校施設で特色ある教育活動を行い、魅力的な教育環境の学校を地域に作ることで、若い世代の家族を呼び込むための強みになるようにしたいと考えています。
12	現在、学校が防災拠点となっているが、学校がなくなる地区の高齢者は遠くまで避難できない。その点はどのようにしていくのか。	学校は地域スポーツや防災など地域の重要な拠点となっていることから、学校再編後も、地域スポーツなど地域住民の交流の場や災害時の避難所としての機能を維持していくために、体育館やグラウンドについては、基本的に残していく必要があると考えています。
13	学校再編案の作成にあたり、コンサルタントは入っていますか。	コンサルタントには委託しておりません。
14	第2期再編で東部給食センターはどうなるのか。	東部学校給食センターのあり方につきましては、市の関係部署において検討してまいります。